

【資料3】

アーバンスポーツツーリズム需要者アンケート調査

令和3年2月

アーバンスポーツツーリズム研究会

調査実施概要及び回答者属性

●調査実施概要

・回答者数578(保護者代理回答者数34を含む)

●対象者

・アーバンスポーツに比較的なじみのある札幌大学生及び橋本委員の関わる教室事業及びアーバンスポーツ活動者

●実施期間

・令和2年12月中旬から令和3年1月中旬

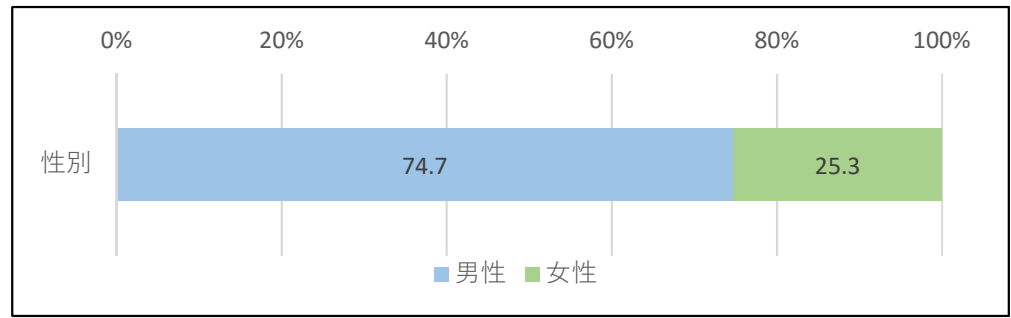
●調査方法

・WEB調査

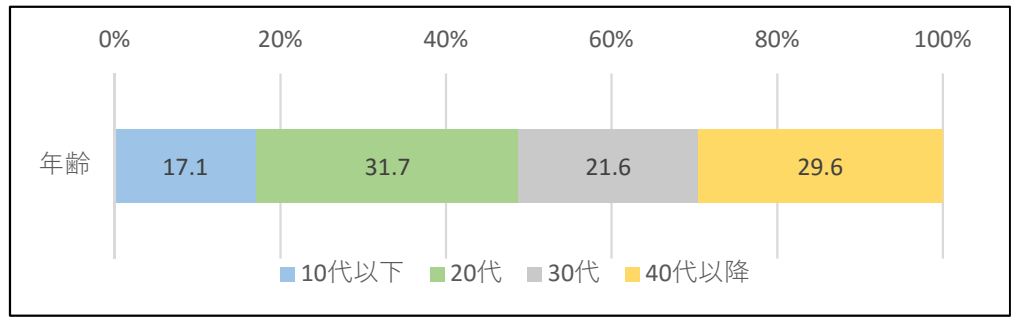
●回答数

・回答者数578(保護者代理回答者数34を含む)

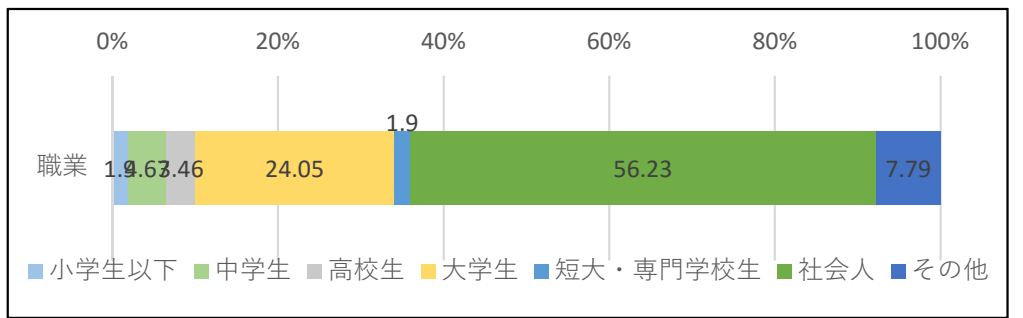
●性別



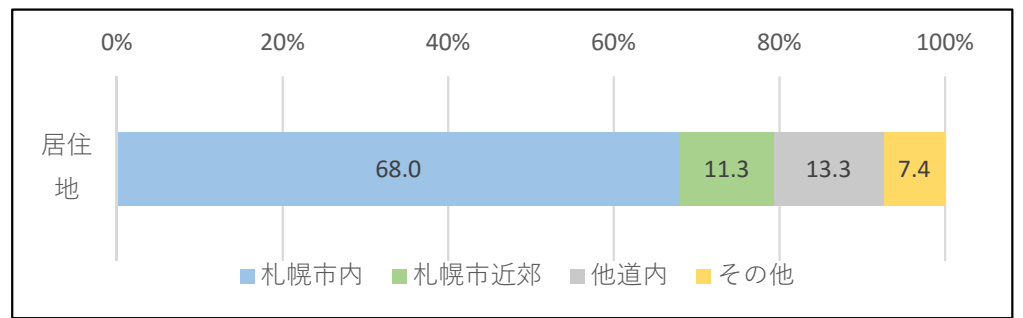
●年齢



●職業



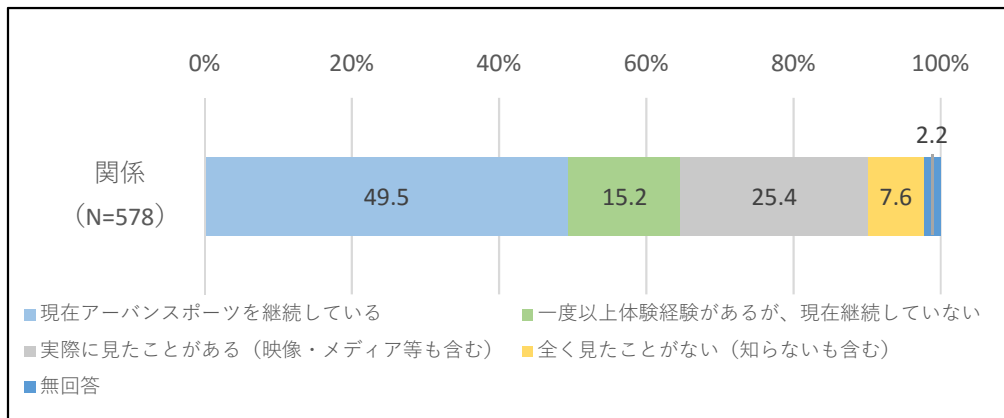
●居住地



※年来・職業で、保護者の属性で回答しているものが若干含まれる

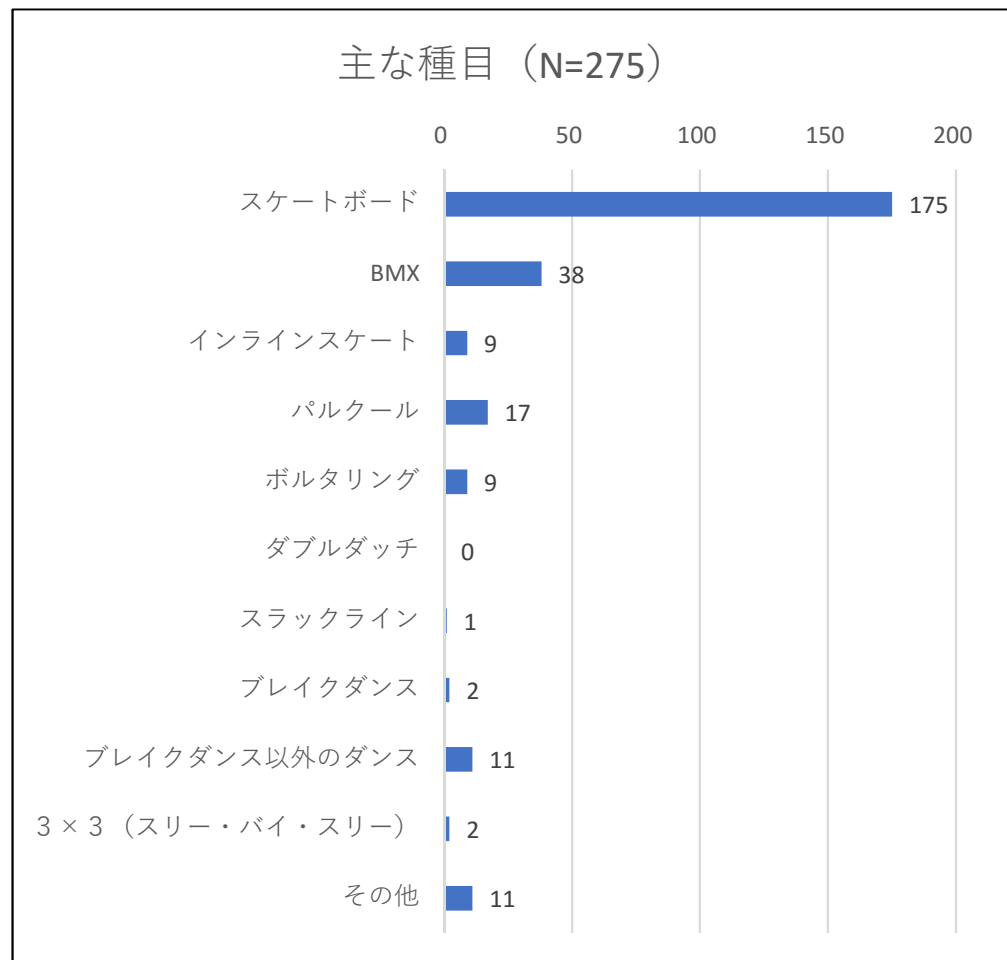
●アーバンスポーツと回答者の関係

・継続的に実施している者が49.5%、過去に経験のある者が15.2%である。



●実施している主なアーバンスポーツ(N=275)

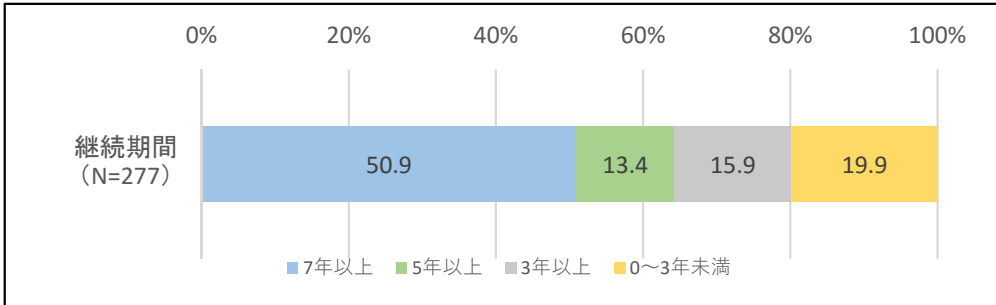
・継続的に実施している者275人の主な実施種目では、スケートボード175人、続いて、BMX38人、パルクール17人、ブレイクダンス以外のダンス11人、インラインスケート9人、ボルダリング9人となっている。



アーバンスポーツ実施状況

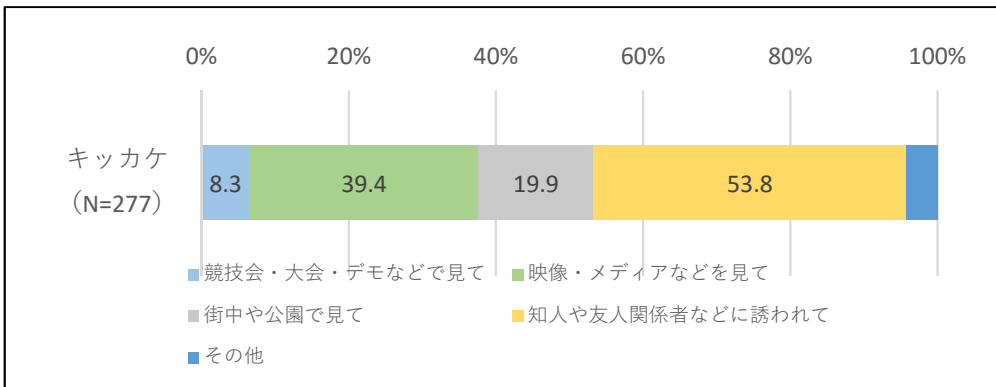
●主に実施している種目の期間(N=277)

・継続的に実施している人277人の種目の期間は、7年以上が50.9%、5年以上が13.4%、3年以上が15.9%、3年未満が19.9%となっている。



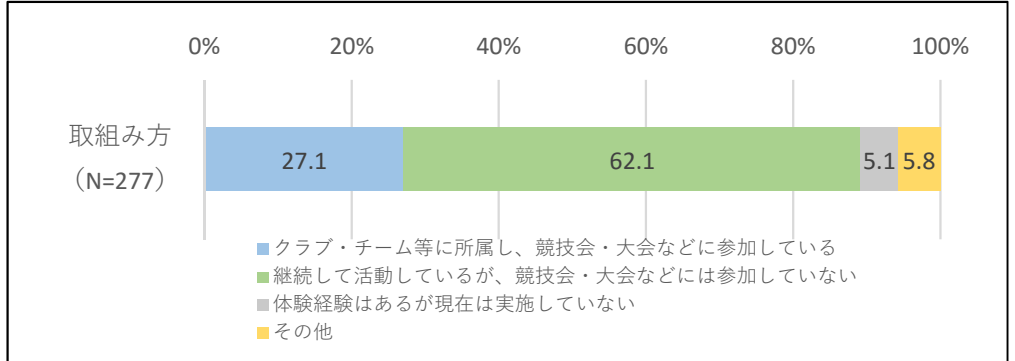
●主に実施している種目のキッカケ(N=277)

・主に実施している種目のキッカケは、知人や友人、関係者に誘われた人が53.8%、続いて、映画やメディアで見てが39.4%、街19.9%となっている。



●主に実施している種目の取り組み方(N=277)

・継続して行っている競技会などには参加していない人が62.1%、クラブ・チーム等に所属し、競技会・大会などに参加している人は27.1%となっている。



●実施している場所

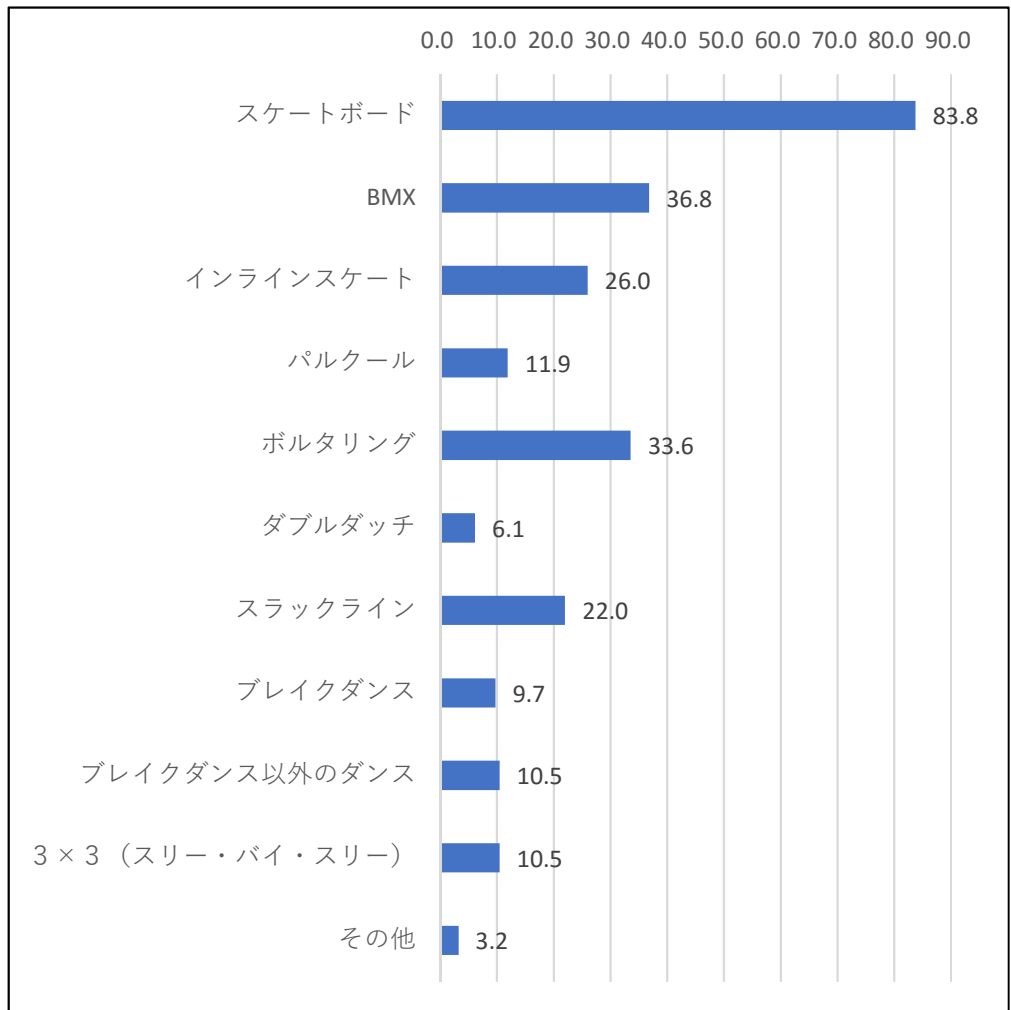
・専用施設で行っているが58.8%、公園・広場など(スケートボード利用可)52.4%となっている。一方、利用不可の講演や・広場29.2%、原則利用できない場所23.5%もある。



アーバンスポーツ実施状況

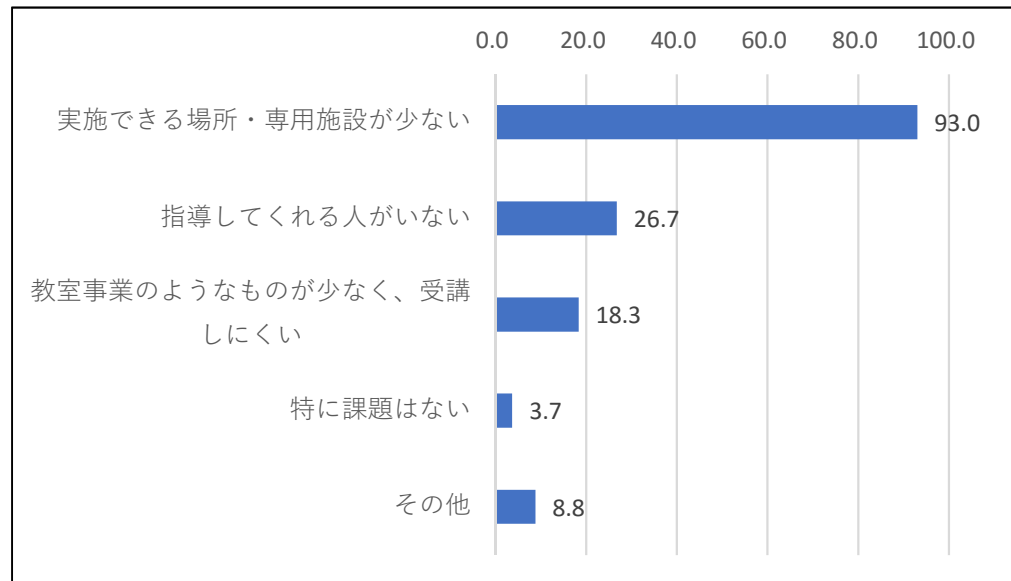
●体験したことのある種目(N=277)

・体験したことのある種目では、スケートボードが83.8%、BMX36.8%、ボルダリング33.6%、インラインスケート26.0%、スラックライン22.0%が上位を占めている。



●活動上の課題(N=273)

・活動をしているの課題としては、実施できる場所・専用施設が少ない93.0%、指導してくれる人がいないが26.7%、教室事業のようなものがない18.3%となっている。

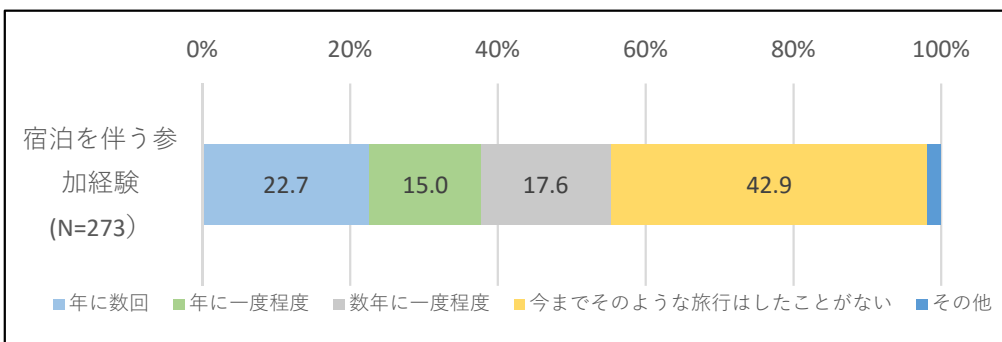


「する」スポーツツーリズムの可能性

●競技会・大会出場のための旅行経験(N=273)

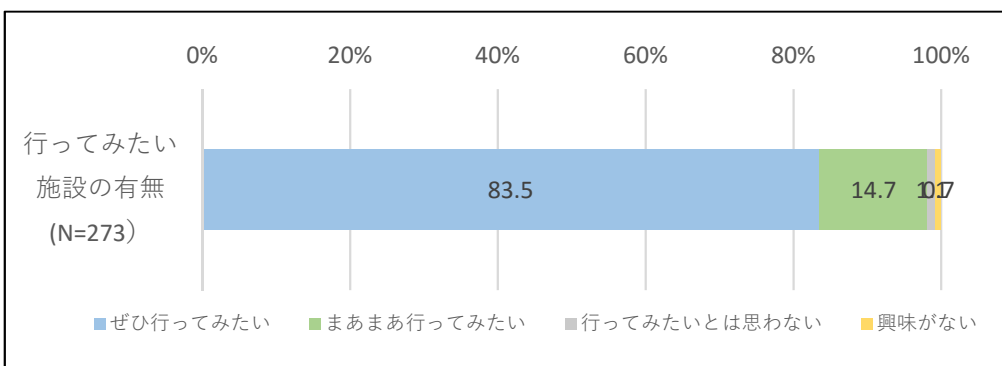
・アーバンスポーツのイベントや競技会・大会などへの出場のために、宿泊を伴う旅行をした経験では、経験がないが42.9%、続いて、年に数回が22.7%となっている。

・数年に一度までを含めると55.3%と半数を超える人が宿泊を伴う旅行経験がある。



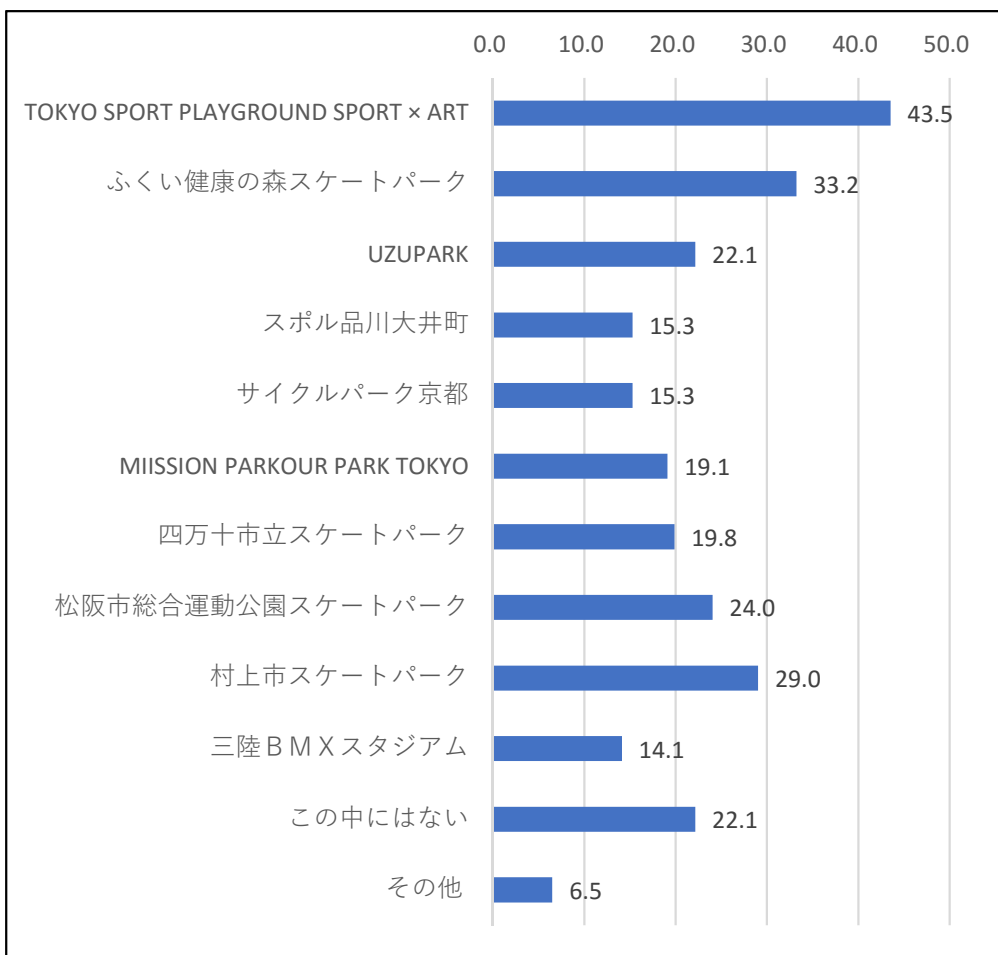
●行ってみたい施設の有無(N=273)

・全国の施設にぜひ行ってみたい人が83.5、まあまあ行ってみたい施設を加えると98%である。



●行ってみたい施設(N=262)

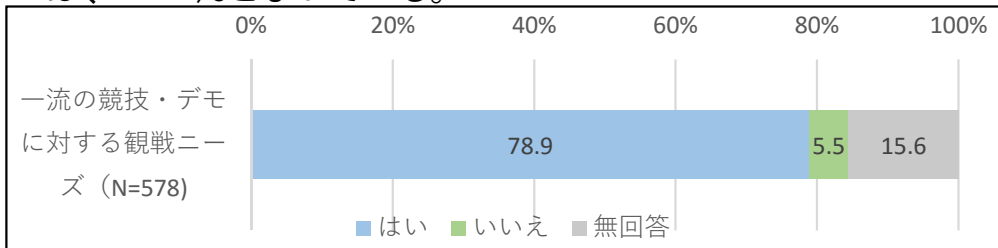
・行ってみたい施設では、一番多いのがTOKYO SPORT PLAYGROUND SPORT × ART43.5%、続いてふくい健康の森スケートパーク33.2%、村上市スケートパーク29.0%となっている。



「見る」スポーツツーリズムの可能性

●一流競技・デモに対する観戦ニーズ(N=578)

・一流の大会競技やデモを見てみたい・観戦したいというニーズは、78.9%となっている。



●関心あるアーバンスポーツへの観戦(N=454)

・一流の競技・デモを見るため宿泊を伴っても行きたい41.6%、応援する選手やチームを応援するため宿泊を伴っても行きたい35.2%となっている。



●行ってみたいアーバンスポーツフェスの有無(N=578)

・アーバンスポーツと音楽やダンス、異文化カルチャーなどを複合したフェスのようなイベントを見てみたい人は74.4%となっている。



●アーバンスポーツフェスにおける重要性(N=578)

・フェスにおける重要性は、興味がある種目の有無63.3%、好きなアーティストの出演43.4%、好きな選手の参加32.5%となっている。

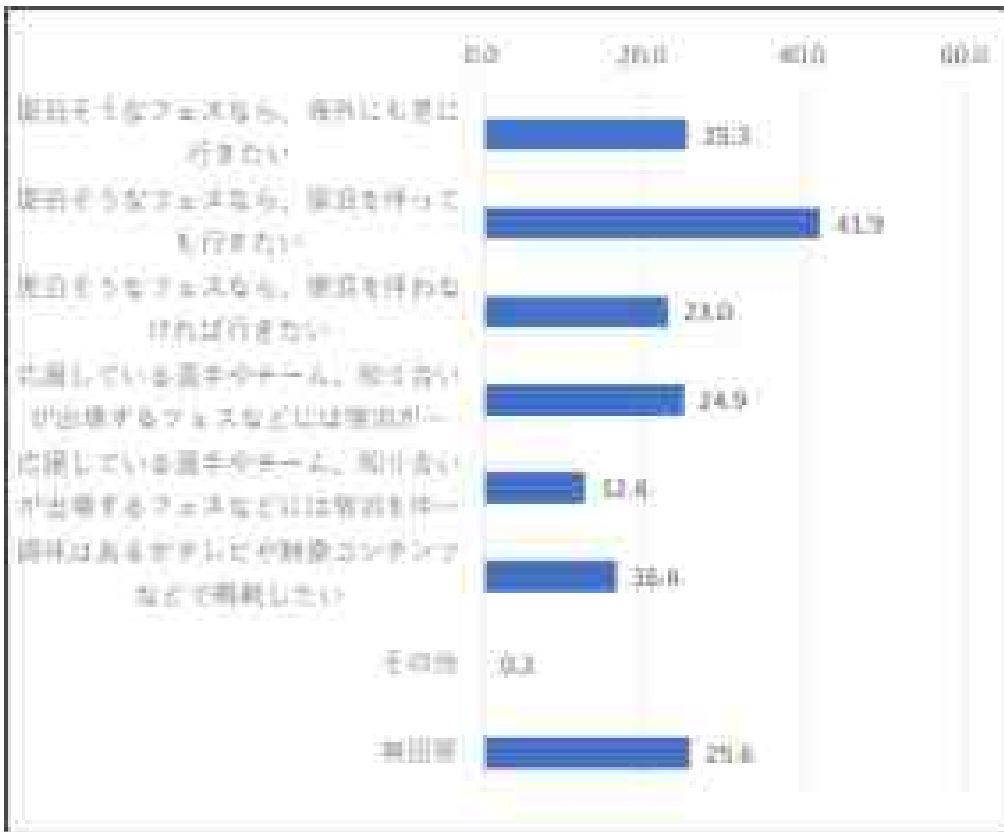


「見る」スポーツツーリズムの可能性

●条件が満たされたアーバンスポーツフェスへの観戦ニーズ (N=578)

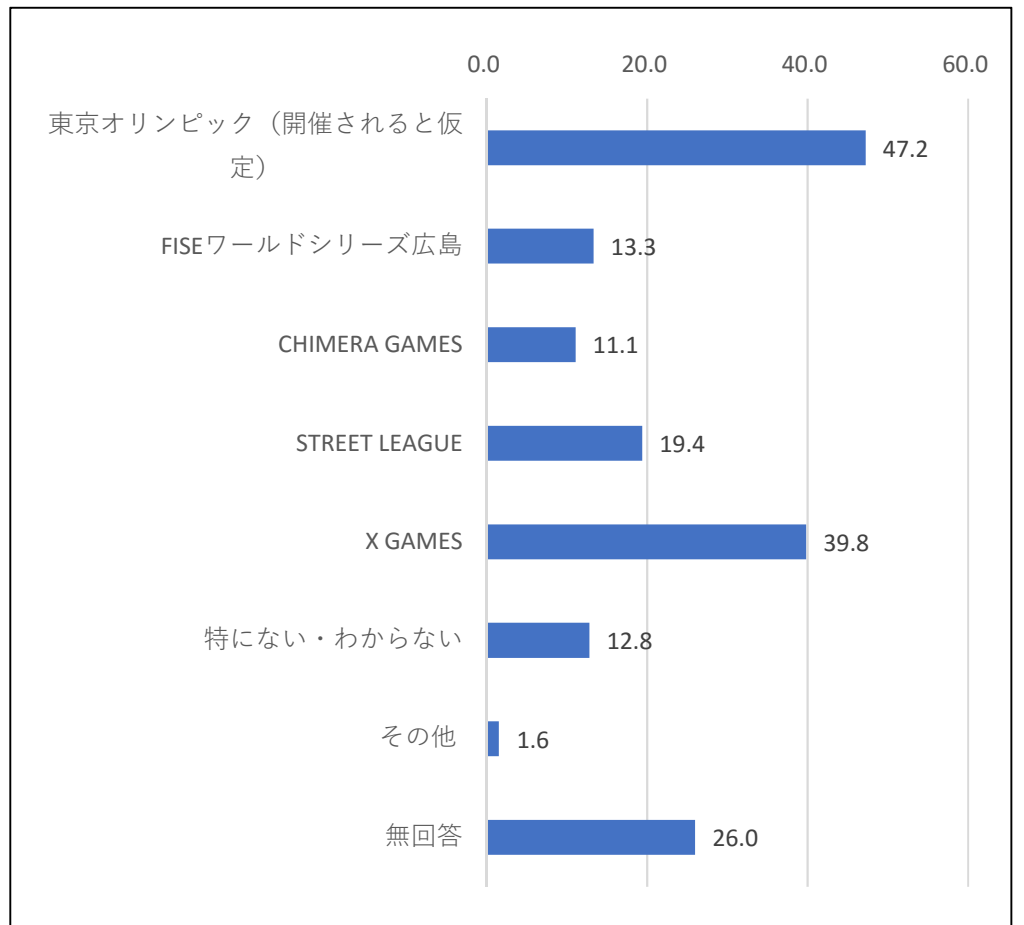
・国内旅行ニーズとして、面白そうなフェスなら、宿泊を伴っても行きたい41.9%、応援している選手やチーム、知り合いが出場するフェスなどには宿泊が伴っても行きたい24.9%となっている。

・海外旅行ニーズも、面白そうなフェスなら、海外にも見に行きたい25.3%となっている。



●見たいアーバンスポーツイベント(N=578)

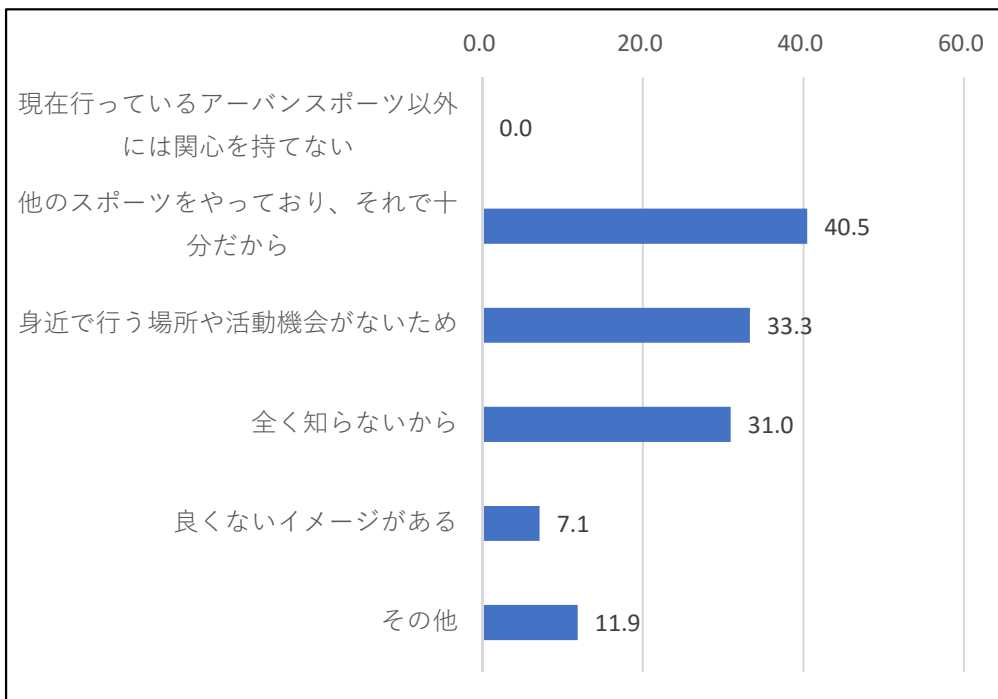
・見たいアーバンスポーツイベントとして、東京2020オリンピック47.2%と最も多く、続いてX-GAMES39.8%となっている。



●アーバンスポーツに関心がない理由(N=42)

・アーバンスポーツに関心のない理由として、他のスポーツをやっており、それで十分だからが40.5%、身近で行う場所や活動機会がないから33.3%、全く知らないから31.0%となっている。

・本会の調査対象は比較的、アーバンスポーツに触れる機会のある方を対象としており、少数い意見となっているが一般的にはこのような課題が大勢を占めるものと推測される。



●アーバンスポーツの特徴(N=578)

・アーバンスポーツは、遊びの感覚でできるスポーツ58.5%、音楽やファッションと結び付いた若者文化49.7%、街中でできるスポーツという特徴を指摘している。

・一方、場所によっては倦厭されている41.9%とマイナス面を指摘るものも多い。

